

令和4 年度第19回ヨコハマe アンケート

「OPEN YOKOHAMA」を音で表現するサウンドロゴに関するアンケート

実施期間 令和4年12月9日（金）から12月23日（金）

事業所管課 政策局 広報戦略・プロモーション課

回答者数 830人（回答率：19.6%）

【参考】eアンケートメンバー数 4,240人（12月9日時点）

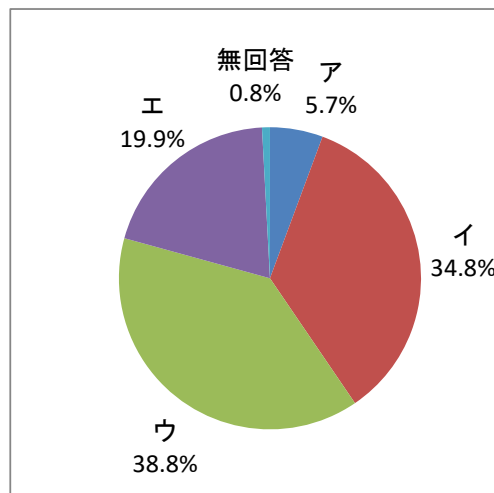
年代別、横浜市内在住・在勤・在学別の回答者構成比

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
横浜市内在住	0 (0.0%)	6 (0.7%)	44 (5.3%)	138 (16.7%)	250 (30.1%)	220 (26.5%)	169 (20.4%)	827 (99.7%)
横浜市内在勤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)
横浜市内在学	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)
計	0 (0.0%)	7 (0.8%)	44 (5.3%)	139 (16.7%)	250 (30.1%)	221 (26.6%)	169 (20.4%)	830 (100.0%)

Q1 Aの音を聞いて、ステートメント(横浜の未来像)に表されているような横浜の魅力や特徴が感じられますか。
(単一選択)

n = 830

ア	とても感じる	5.7%	47
イ	どちらかといえば感じる	34.8%	289
ウ	どちらかといえば感じない	38.8%	322
エ	まったく感じない	19.9%	165
無回答		0.8%	7
		100.0%	830



Q2 Aの音について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由意見)

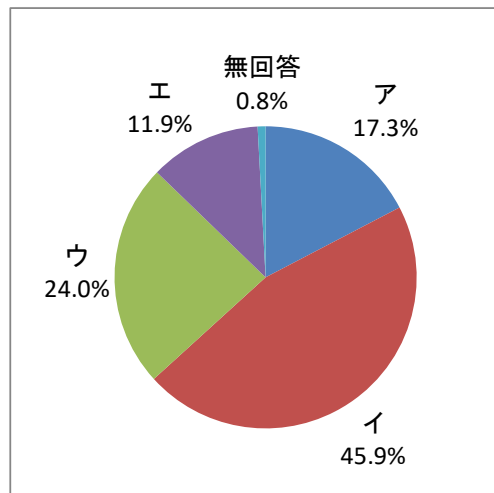
(抜粋)

3つの中では一番個性があって耳に残る音。個性があるため軽く違和感があるが、サウンドロゴとしては良い。
ロゴを五線譜に当てはめて音を作る発想が斬新で、その点では未来のイメージに合致すると思う。
横浜の魅力や特徴が感じられるかは置いといて、候補の中では一番未来的で、未来像にふさわしい音だと感じた。開放的で先進的な横浜の未来像にはとても合っていると思う。また、サウンドも爽やかで誰が聞いても不快に思わない、好感が持てる音だと思った。OPEN YOKOHAMAのロゴと五線譜がリンクしているのも分かりやすく親しみやすい。
さわやかな朝の風景や横浜の魅力を感じた
音自体が悪いわけではないが、横浜らしさ、というのがあまりピンと来なかった。
最後の方の音が、少し音程に違和感を感じた。
前提知識がないと横浜市と感ずることができない。
「風車」のイメージにはなっていないと思う。音源をもう少し長くして、風が吹いて風車がゆっくりと回っている様子を感じられることが必要かと。
斬新だが、なじめない。

Q3 Bの音を聞いて、ステートメント(横浜の未来像)に表されているような横浜の魅力や特徴が感じられますか。
(単一選択)

n = 830

ア	とても感じる	17.3%	144
イ	どちらかといえば感じる	45.9%	381
ウ	どちらかといえば感じない	24.0%	199
エ	まったく感じない	11.9%	99
無回答		0.8%	7
		100.0%	830



Q4 Bの音について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由意見)

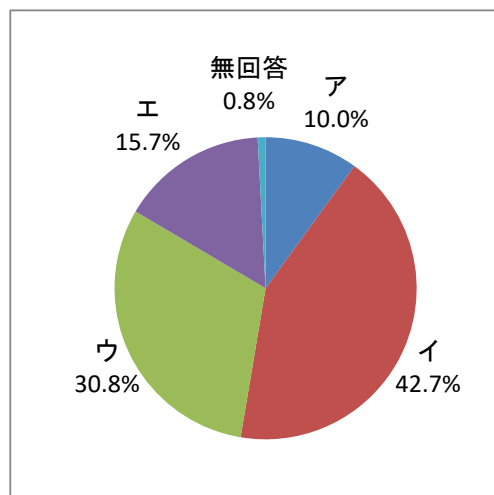
(抜粋)

3つの中では、一番良かった。やはり、横浜市歌のイメージは強力だと思う。横浜で育った人ならわかると思う。横浜市民には、根付いている。他の地域の人にもアピールすべき。
横浜市民なら誰でも知っている横浜市歌をベースにしているところが好ましい。過去から続くメロディを明るくリズムカルにアレンジする事で未来へ進む横浜の姿が想像できる。
横浜市歌は、年齢を問わず誰でも知っていて親しみもあり、印象に残る名歌だと思う。横浜は、開港時から新進気質のある町であり、これからも未来を切り拓いていく力を感じる。このメロディを聞くと、その続きも自然に口ずさんでしまう。
市歌を使っているからかとても身近で親しみやすい印象を受けました。横浜市民で横浜市歌に親しみを持っている人、誇りに思う人は多いと思う。そのような人たちにとっては、市のフレーズとして受け入れやすいものではないかと感じた。最後のYOKO.HAMAのところは軽快で、伝統からその先の未来へと言う雰囲気があるように思えた。
市歌を知ったり聞いてみたりするキッカケにもなると思う。古き良き横浜の文化が取り入れられている。
歴史を慈しみながら、新しい横浜として明るく前向きに変化を恐れずステップアップしていくイメージを感じた。
横浜市歌のフレーズとシンセサイザーの音がミックスしているのが、新旧の調和が感じられて横浜らしい汽笛の音が入っているのも、歴史ある港町らしさを表しているおしゃれだと思う。強いて改善点を挙げるなら、「多様性」というコンセプトは感じづらいのではないかと考える。
思い切って、もっと横浜市歌のフレーズにしてしまうのも良いのでは？
聞き慣れている曲なので未来より過去を思い浮かべました 苦屋が並んでいる海沿いの集落のイメージ。

Q5 Cの音を聞いて、ステートメント(横浜の未来像)に表されているような横浜の魅力や特徴が感じられますか。
(単一選択)

n = 830

ア	とても感じる	10.0%	83
イ	どちらかといえば感じる	42.7%	354
ウ	どちらかといえば感じない	30.8%	256
エ	まったく感じない	15.7%	130
無回答		0.8%	7
		100.0%	830



Q6 Cの音について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由意見)

(抜粋)

ヨコハマ♪と歌っているような感じで、嫌みがない。簡単なメロディで、受け入れやすいと思う。
三つの中では一番しっくりきた。よこはまを音で表しているというが、口頭で「よこはま」と発生する時の音階とは一致しておらず、音だけで聞いてもYOKOHAMAのリズムには思えないが、弾む明るい感じが楽しい未来を想起させて好ましいと思えた。
ちょっと変わった音の組み合わせが未来的だと思った。
優しい音でスタートして心地良いと感じた。
3つの中では一番軽い感じ。軽いので聞き流してしまう。鳴ったことが耳にあまり残らない。「これが横浜市サウンドロゴだ」と言っても押しが弱い気がする。ロゴというならもう少し個性というか、耳に引っかかる部分が必要だ。
横浜市感じには聴こえませんが、新しさは感じた。
爽やかで明るくて良い。ただ市歌バージョンを聞いてしまうと、どこにでもある音なのかなとも感じてしまう。
良い意味でも悪い意味でも、ロゴサウンドらしい音だと感じる(奇抜すぎないので、他の2点と比較すると違和感なく聴けるが、オリジナリティは感じづらいと思う)。前半のチェレスタの音と後半の「YOKOHAMA」のリズムの間が長めだった。ステートメントに合わせた音楽のイメージが、解説を読んでも抽象的でわかりづらい。
シンプルで良いが、インパクトがない。

Q7 「OPEN YOKOHAMA」を音で表現するサウンドロゴに対して、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由意見)

(抜粋)

短い、どれも良い音だと思う。その中でも、特に印象的なのはBだと思う。横浜市歌がこのように洗練されたメロディで耳に届くのは、さすが音楽の町YOKOHAMA だと感じた。
個人的にはBの音が一番横浜のイメージに合っているように思った。広報等の最後にこれらの音が入って終わるのを想像してみたが、とてもさわやかな印象になると思った。サウンドロゴは耳から入る情報なので、日々何気なく聞く中で皆に覚えてもらいやすいし、音を聞くことで横浜を思い出してもらえるのは素敵だと思う。いろいろな場面で活用されることを期待する。
シンプルだけど、いろいろな横浜の特徴を表していて良いと思う。
面白い試みだと思います。視覚、聴覚、触覚(嗅覚、味覚は難しいかな)、五感に訴えることは全ての市民に重要な対応だと思います。デジタル機器が発達してきた今、うるさすぎないスマートさを持ったロゴが浸透すると世界中どこにいても横浜市民であることを誇れると思う。
ロゴだけでなく、サウンドを付けるというのは良いアイデアだと思った。あまり長くなく、シンプルなものの方が良いと思った。
どのような場面で利用されるのかイメージが湧きづらいが、例えば市営バスのアナウンスやICカード決済、市営地下鉄のドア開閉など身近なところで活用されれば認知度が上がるように思う。
3つとも特に「これ」と感じるものはなかったが、短いフレーズなので、聞きなれば魅力につながるかもしれないと思った。
サウンドロゴという発想は良いと思う。何かのイベントの始まり、市営地下鉄の発車前の音などの用途がありそう。頻繁に聞く機会がないと忘れ去られる気がする。使い方をもっともっと考えて、実行してほしい。